

# 熊本県・山鹿地域の現状と展望について

2023年9月5日

熊本経済同友会

笠原 慶久

1. プロフィール

2. 熊本県、山鹿地域の現状

3. 山鹿地域の課題について

4. 山鹿地域の展望について

5. まとめ

## 1. プロフィール

## 2. 熊本県、山鹿地域の現状

## 3. 山鹿地域の課題について

## 4. 山鹿地域の展望について

## 5. まとめ

# 1. (1) プロフィール 笠原慶久



かさはら よしひさ  
笠原 慶久

1962年 1月 5日 生まれ  
(満61才)

出身地 : 東京都  
出身大学 : 慶應義塾大学  
経済学部

## 職歴

- |          |  |
|----------|--|
| 1984年 4月 | 富士銀行 入行<br>三田支店、大阪営業部、米国留学(MBA)、ロサンゼルス支店、人事部、みずほホールディングス人事部 等を経て |
| 2007年 4月 | みずほ銀行 熊本支店長  |
| 2014年 4月 | みずほ信託銀行 常務執行役員   |
| 2015年 4月 | (株)肥後銀行入行 常務執行役員 監査部長  |
| 2016年 6月 | 九州フィナンシャルグループ 取締役  |
| 2018年 4月 | (株)肥後銀行 代表取締役 副頭取  |
| 2018年 6月 | (株)肥後銀行 代表取締役頭取 (現任)   |
| 2019年 6月 | (株)九州フィナンシャルグループ 代表取締役社長 (現任)                                    |
| 2019年 7月 | (公財) 地方経済総合研究所 代表理事 (現任)   |
| 2021年 4月 | 熊本経済同友会 代表幹事 (現任)  |

## 趣味

読書・テニス・ゴルフ・ジョギング・囲碁(二段)・音楽絵画鑑賞



@YOSHIHISA.KASAHARA



# 1. (2) プロフィール 熊本経済同友会 (概要)

## <熊本経済同友会の概要>

団体名	熊本経済同友会	設立	1955年9月
所在地	熊本市中央区城東町4-2	会員数	330名 (2023年3月現在)
代表幹事	■ 笠原 慶久 <(株)肥後銀行> ■ 平田 雄一郎 <平田機工(株)>		
副代表幹事	■ 野々口 弘基 <(株)地域交通ホールディングス> ■ 福岡 哲生 <(株)鶴屋百貨店> ■ 富永 哲生 <(株)ハウディ> ■ 井原 宏 <熊本トヨタ自動車(株)> ■ 野田 珠実 <(株)野田市兵衛商店>		

### 【2023年度 活動方針】

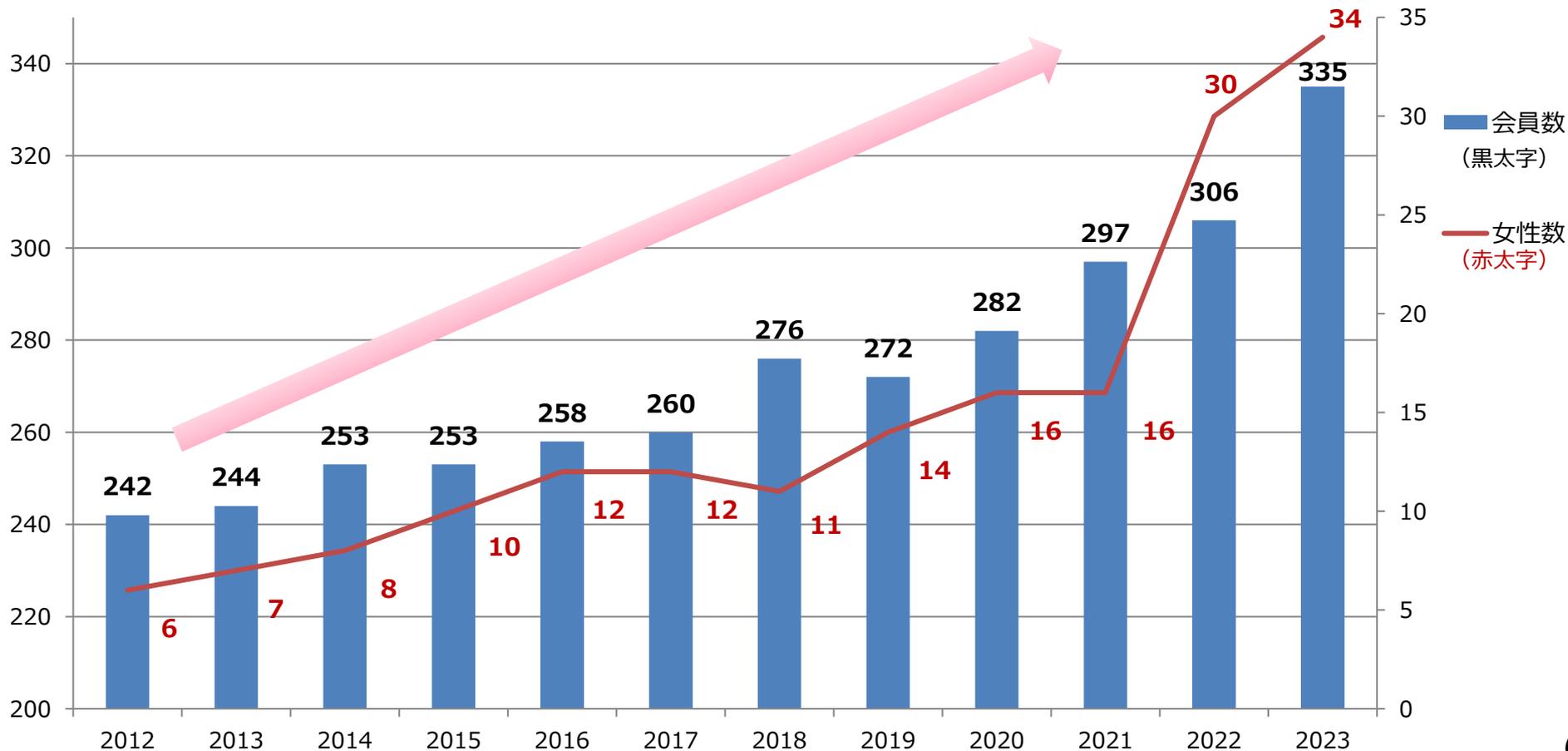
同友会全世代・産官学の力を結集し、行動する集団に変革しよう！

～選ばれる熊本を共創する～

1. 人的資本投資と健康経営を推進し、企業価値向上を図る
2. 個別企業と地域全体の両面でDXを推進し、SDGsの実現を主導する
3. 同友会全世代・産官学の力を結集し、経済活性化の波を熊本から起こす

# 1. (2) プロフィール 熊本経済同友会 (会員推移)

## 熊本経済同友会 会員数・女性会員数 推移



1. プロフィール

**2. 熊本県、山鹿地域の現状**

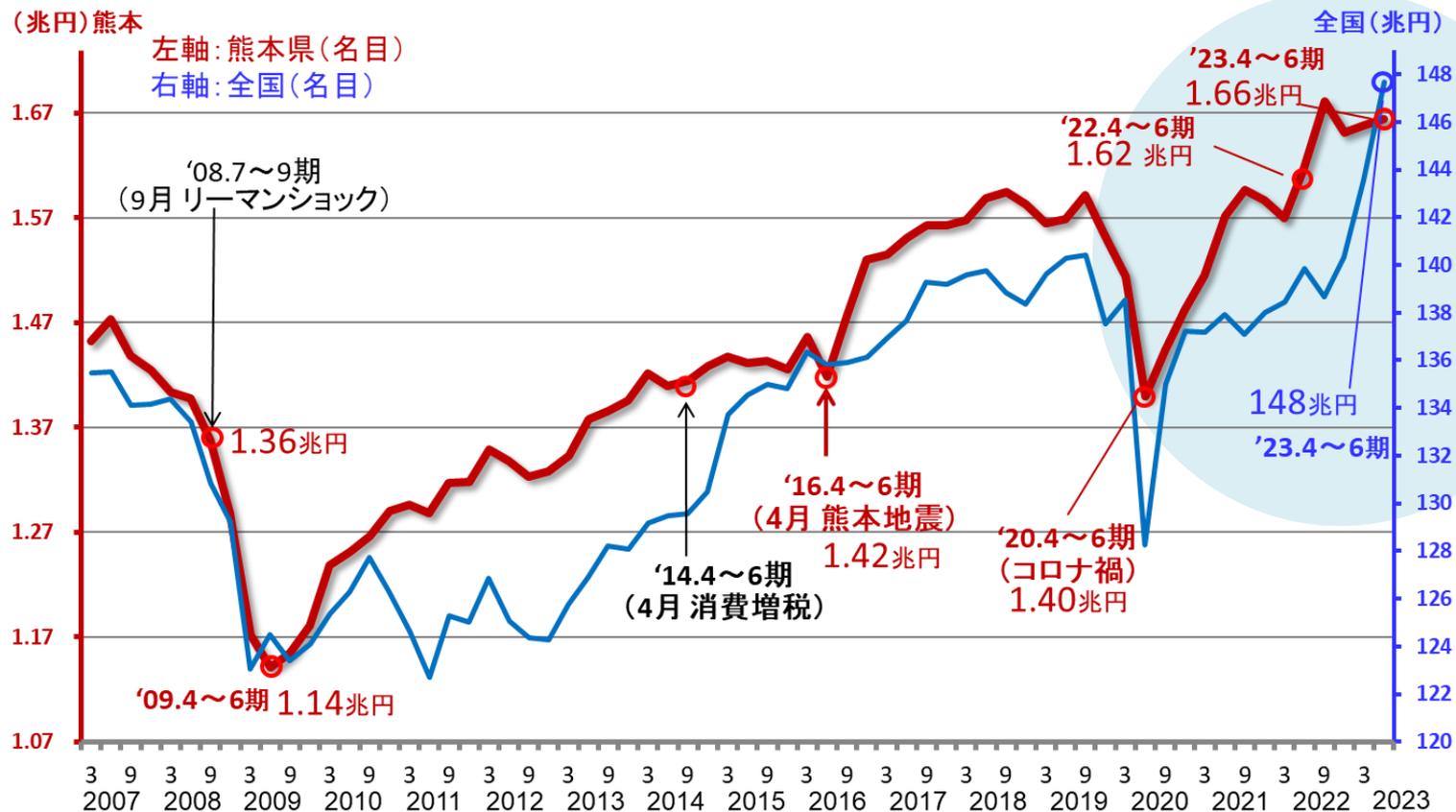
3. 山鹿地域の課題について

4. 山鹿地域の展望について

5. まとめ

## 2. (1) 熊本県域内総生産推計 <四半期>

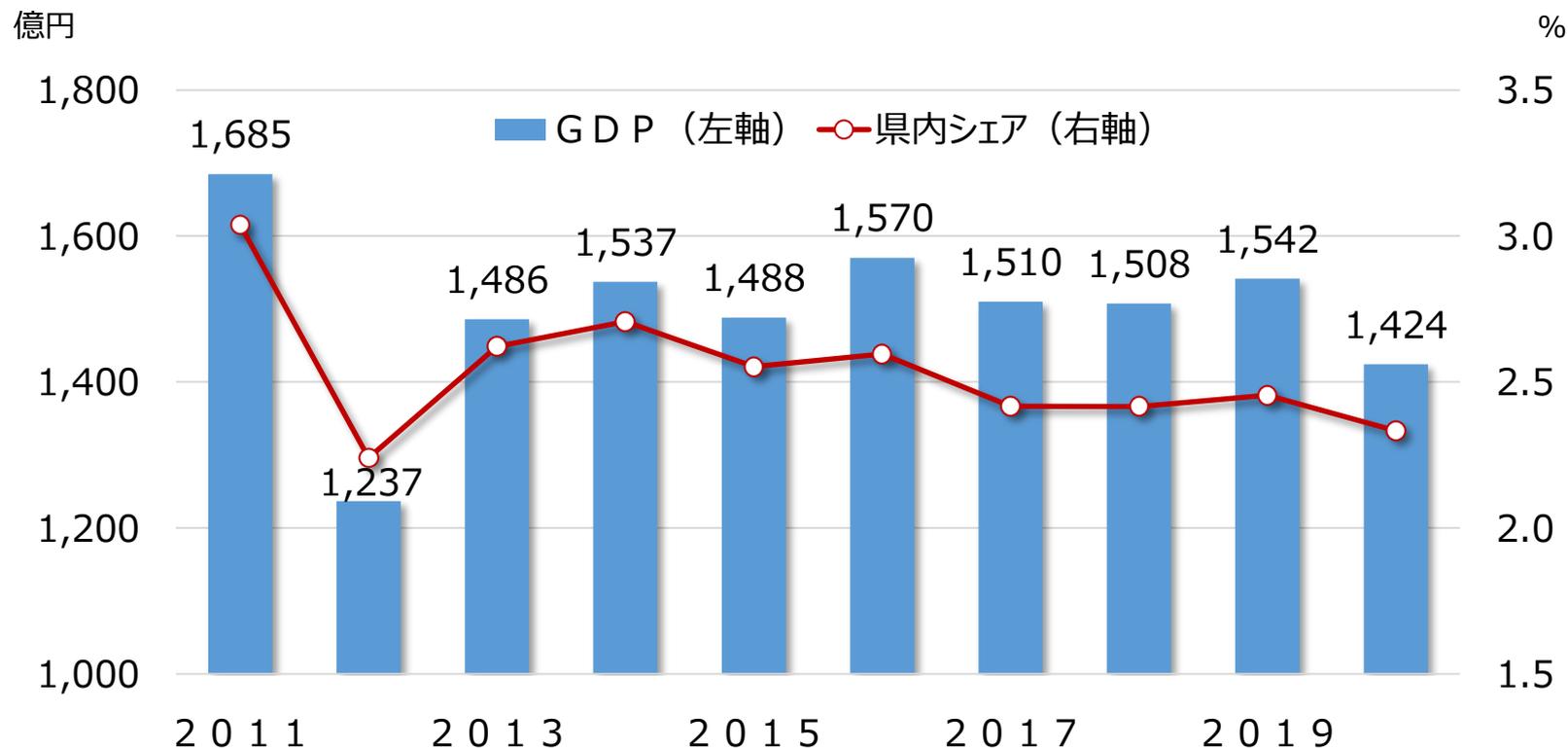
- 熊本県の域内総生産（四半期、名目、地総研推計）は産業集積と共に順調に増加
- コロナ禍からの回復も早く、全国と比べ1～1.5年先行して経済回復



資料：地方経済総合研究所、内閣府

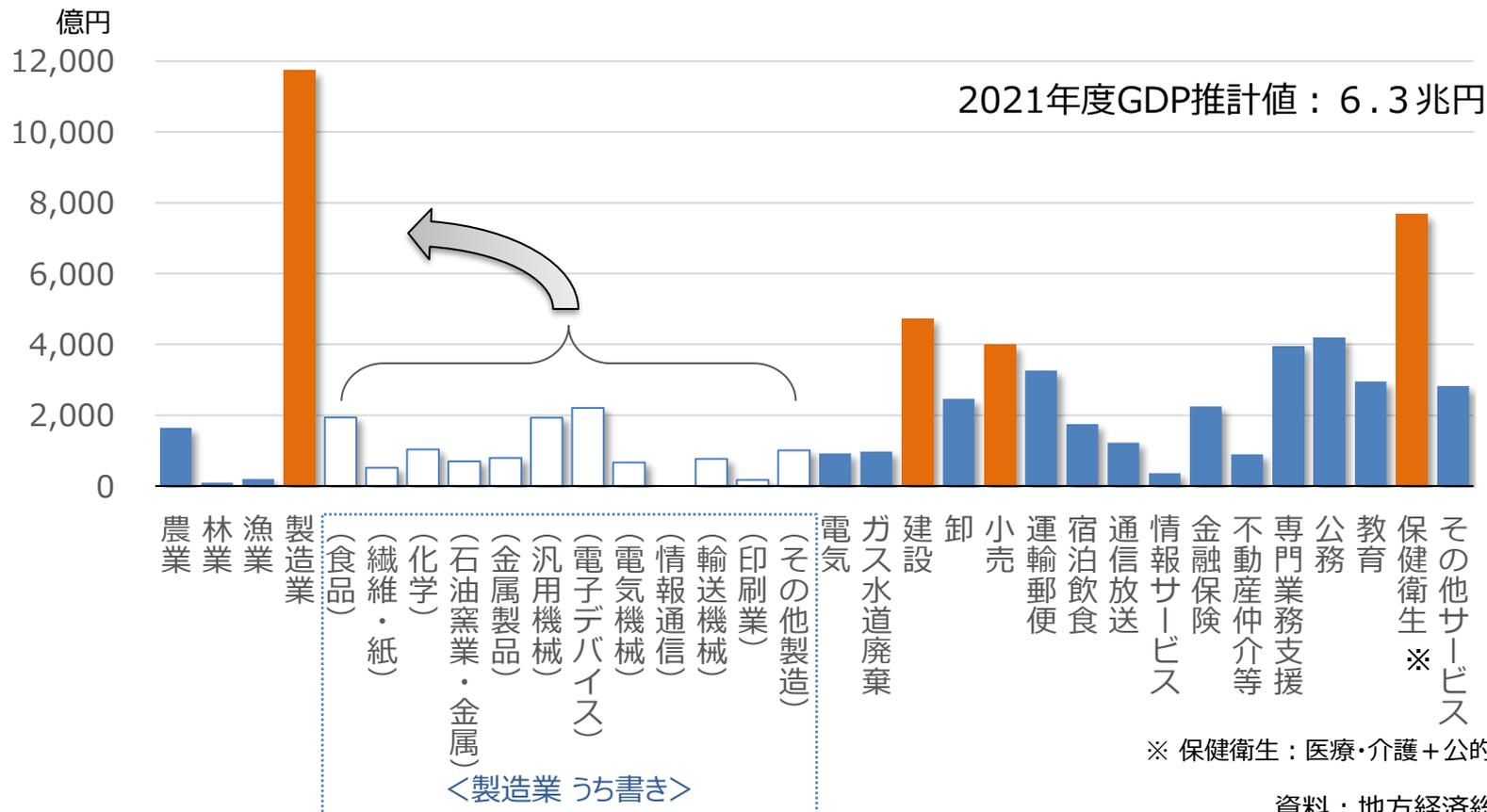
## 2. (2) 山鹿地域GDP推移

- 山鹿市のGDPは概ね1,400～1,600億円で安定的に推移  
県内におけるGDPシェアは若干ながら低下傾向



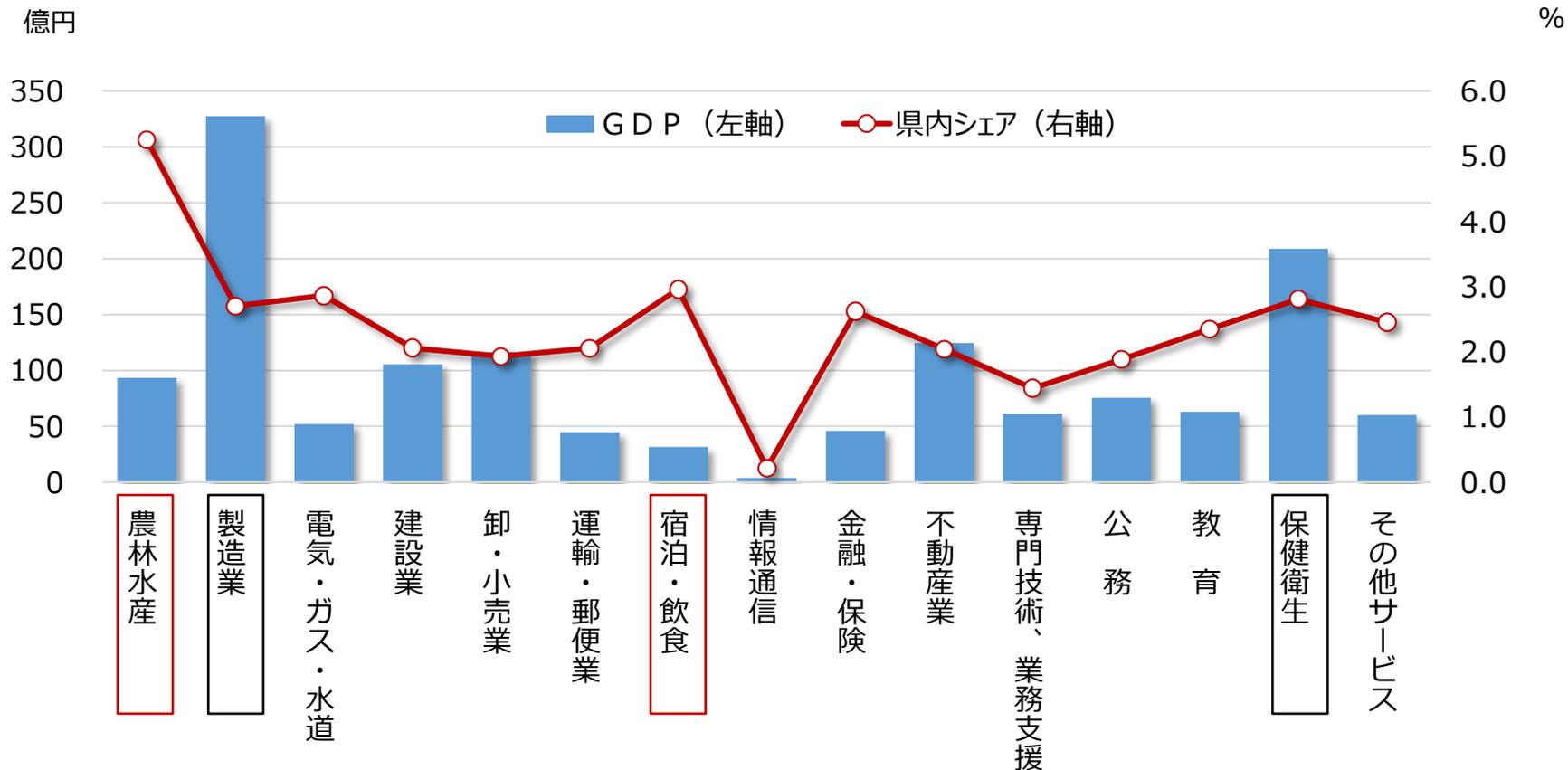
## 2. (3) 熊本県の産業構造～業種別域内総生産

- ▶ 熊本県のGDPを牽引するのは、**製造業、建設業、小売業、保健衛生等**
- ▶ 今後更に**TSMC進出、ソニー・三菱電機の工場拡張、関連産業の集積等の効果**が加わってくる



## 2. (4) 山鹿地域の産業構造 ～ 業種別GDP

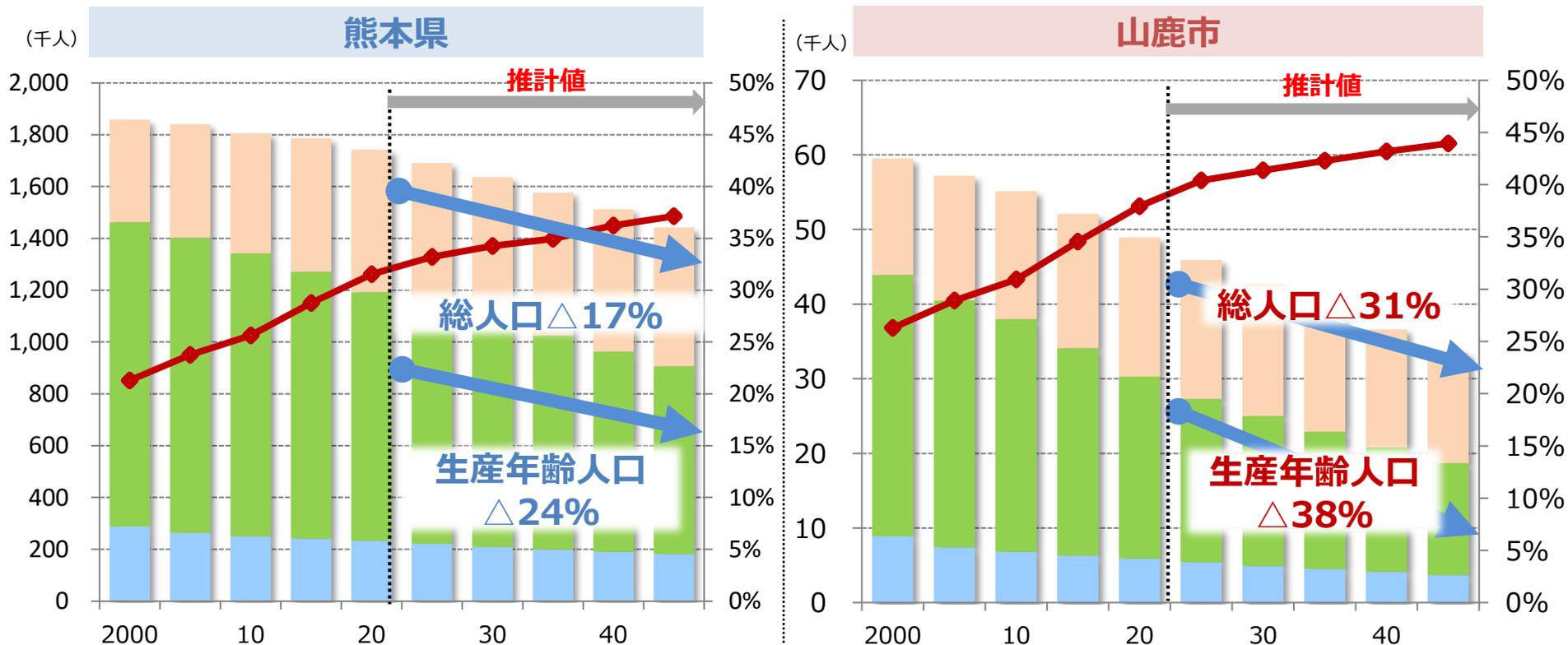
➤ 業種別では「製造業」と「保健衛生」で金額が大きく、「農林水産」「宿泊・飲食」で県内シェアが高い



## 2. (5) 熊本県・山鹿市の将来人口推移

- ▶ 熊本県総人口は、2020年174万人から、2045年144万人へ17%減、生産年齢人口も減少
- ▶ **山鹿市**の総人口推移および生産年齢人口推移は共に、**県全体よりも低位**

■ 15歳未満 ■ 15~64歳 ■ 65歳以上 ◆ 65歳以上比率 (右軸)



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所

## 2. (6) 熊本県の人員不足の状況

- 現時点で想定される10年後（2030年）の熊本県の人員不足は以下の通り
- **産業のDX化および地域への移住者増加により、地域経済の維持・成長に繋げる事が課題**

現時点の不足人員

2.8万人

2021年 熊本県有効求人数年間平均（熊本労働局）

生産年齢人口減

7.2万人

2020年→2030年 生産年齢人口推計（社会保障・人口問題研究所）  
× 生産年齢人口就業率77%

産業振興に伴う追加労働力

2.0万人

2030年 県GDP・製造品出荷額目標（2020年熊本県産業成長ビジョン）より推計

合計

12.0万人 ←

不足

これは**県内就業者数**83万人（2015年）の**14%に相当**

## 2. (7) データから見える山鹿地域の特徴 (まとめ)

課題	データ分析結果
<b>企業の利益</b> および <b>個人所得</b> 増加	➤ GDPが県はコロナ禍前水準まで回復基調にある一方、山鹿地域の県内シェアは低下傾向
<b>主要産業</b> (強み) の強化	➤ 山鹿地域は製造業におけるGDPが高い。また、農業、宿泊・飲食における県内シェアが高い
<b>移住・定住、交流人口</b> の拡大	➤ 山鹿地域の人口減少は、今後急速に進行が予想。市外からの移住・定住促進が必要
産業の <b>担い手確保、DX化</b>	➤ 人口流出 (特に若者) が顕著であり、産業の担い手確保およびDXによる生産性向上が必要

1. プロフィール

2. 熊本県、山鹿地域の現状

**3. 山鹿地域の課題について**

4. 山鹿地域の展望について

5. まとめ

# 3. (1) 山鹿市 総合戦略

## 山鹿市まち・ひと・しごと創生推進計画

### 人輝き飛躍する都市 やまが

基本  
目標 1

地域の未来を支える人材・組織を育て、  
つなぎ広げる

基本  
目標 2

明日の幸せを語れる暮らしをつくる

基本  
目標 3

本市が成長するためのエンジンとなるよう  
な取組を戦略化する

【SDGs】関連するゴール



### 重点プロジェクト①

<e-CityYAMAGAプロジェクト>  
～プログラミング学習、eスポーツの推進～



### 重点プロジェクト②

<豊前街道の歴史的まちなみ再生プロジェクト>  
～にぎわいの創出、中心市街地活性化～



### 3. (2) 山鹿市の重点施策

課題名		内容
1	地域の未来を支える人材の育成・確保	山鹿市に就労を希望する全ての人への <b>地元企業への雇用</b> および未来を支える <b>人材の育成</b>
2	移住・定住の促進	移住定住の受け皿となる <b>空き家の掘り起し強化</b> とともに、移住定住希望者へ向けた細やかな対応
3	安心して子育てできる環境づくり	人口減少及び少子化が進む中、小児医療体制の充実および子育てに関する費用の女性等、 <b>安心して子供を産み育てられるまちづくり</b>
4	新しい交流の促進	山鹿市カルチャースポーツセンターの改修・機能強化による、様々なスポーツ大会等、 <b>交流人口の拡大</b>
5	TSMC進出に伴う企業進出の工場用地の不足および従業員の住環境整備	TSMC進出に伴う、 <b>工場用地の整備</b> および <b>従業員の住居等の環境整備</b>

### 3. (3) TSMC進出に伴う経済波及効果

➤ 2022年9月公表の「T S M C 進出を起点とした経済波及効果」からの増加額 **25,597億円**

分類		前回 (2022年9月)		今回 (2023年8月)		差額	
		経済波及効果	GDP影響額	経済波及効果	GDP影響額	経済波及効果	GDP影響額
生産	半導体 関連産業	< 生産開始～2031年までの累計 > 28,715億円	13,559億円	※ 41,406億円	※ 19,637億円	+12,691億円	+6,078億円
	半導体 関連産業	12,065億円	6,545億円	24,054億円	13,198億円	+11,989億円	+6,653億円
投資	工業団地 土地造成	779億円	471億円	1,007億円	609億円	+228億円	+138億円
	住宅	1,362億円	678億円	2,052億円	1,019億円	+690億円	+341億円
10年累積効果 2022年 ～2031年		42,921億円	21,252億円	68,518億円	34,463億円	+25,597億円	+13,211億円

2023/8/30 KFG定例記者会見資料より抜粋  
資料：肥後銀行、地方経済総合研究所  
監修：岡山大学特任教授中村良平氏

※ 主要企業がフル稼働を開始する2030年以降の、「生産」に関する  
経済波及効果額を「**8,488億円／毎年**」、  
GDP影響額を「**4,028億円／毎年**」と推計

### 3. (4) 域内投資・調達率向上

J A S M材料・装置の国内調達率目標 = 50%

「サプライヤーが国内でかなりの投資をしなければ25%程度にとどまる見通し。  
まずは材料系で国内の調達率を高めていきたい。」 (J A S M 堀田社長 2022.8.23 日本経済新聞)



熊本県 電子デバイス部門  
材料・装置県内調達率 = 24%

← 左記は「電子デバイス部門」全体の調達率であり、先端産業であるJASMの調達率は更に低い可能性が高い

(参考) 食品・繊維等含む製造業全体の材料・装置県内調達率 = 25%

資料：2015年熊本県産業連関表

産官学金が連携し、  
県内およびオール九州の域内投資・調達率向上に努める

### 3. (5) 経済波及効果実現に向けた肥後銀行の取り組み

#### ■ 半導体関連企業向けソリューション

半導体サプライチェーン企業

熊本県進出企業へのソリューション

#### 【国内企業】

半導体関連企業

#### ■ 自治体との連携

工業団地情報収集・企業誘致

各種補助金に関する情報収集

#### 【台湾企業】

進出企業支援

#### 【行政】

自治体連携



#### 【JASM】

従業員取引

#### ■ JASM (TSMC) 従業員取引

口座開設、各種ローン商品の開発

台湾人従業員用住居確保支援

#### ■ 台湾企業向けソリューション

事業用土地情報紹介・融資提案

台北駐在員事務所設立による  
日台双方からの支援

1. プロフィール

2. 熊本県、山鹿地域の現状

3. 山鹿地域の課題について

**4. 山鹿地域の展望について**

5. まとめ

## 4. (1) 山鹿地域の展望について

1

**山鹿地域の強みを伸ばす**  
～地域の特徴である農林業、観光業の成長～

2

**地域資本の経済資本への転換**  
～文化（山鹿灯籠）、歴史（豊前街道、八千代座）等の活用～

3

**D X**活用による、生産性の向上および人材不足カバー

4

**S D G s**による持続可能な環境・社会づくり

## 4. (2) 山鹿地域の強みを伸ばす

- 山鹿の地域産業では、様々な自然・文化・歴史など豊富にあり、**農林業および観光業**に強みを持つ
- 自然・食・歴史においては、山鹿灯籠・八千代座、菊鹿ワインなど**独自の魅力的コンテンツ**が多い



資料：各種HPより

山鹿の地域資源：歴史、自然、文化、食、観光 ⇒ 経済資本に繋げる 23

## 4. (3) 山鹿地域の強みを伸ばす

項目	内容
<b>観光業、農林業の成長、魅力発信</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 山鹿市内の<b>地域資源のブランド化と活用</b></li><li>➤ 市内外観光スポットの<b>周遊促進、ファン作り</b></li><li>➤ <b>交通インフラ</b>の改善</li><li>➤ <b>DX</b>等によるスマート農業、観光DXの推進</li><li>➤ 地域の未来を支える<b>人材の育成・地元定着</b></li><li>➤ 県内外<b>プロフェッショナル人材との交流促進</b></li><li>➤ 空屋の再活用による、<b>県外からの移住促進・活性化</b></li></ul>
<b>TSMC進出に伴う地域経済活性化</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ TSMC関連<b>サプライチェーン進出の受け皿強化</b> ～工業団地整備、進出用地等の確保～</li><li>➤ TSMC関連企業の<b>従業員の住居等の環境整備</b></li><li>➤ 海外からの<b>従業員家族等の観光PR</b>の強化</li></ul>

## 4. (4) 産業革命としてのDX



### Society 5.0

サイバー空間と  
現実世界が  
高度に融合された  
世界

### X-Tech

- フィンテック（金融）
- アグリテック（農業）
- リテールテック（流通）
- エデュテック（教育）
- メドテック（医療）

**DX : Digital Transformation  
(デジタルトランスフォーメーション)**

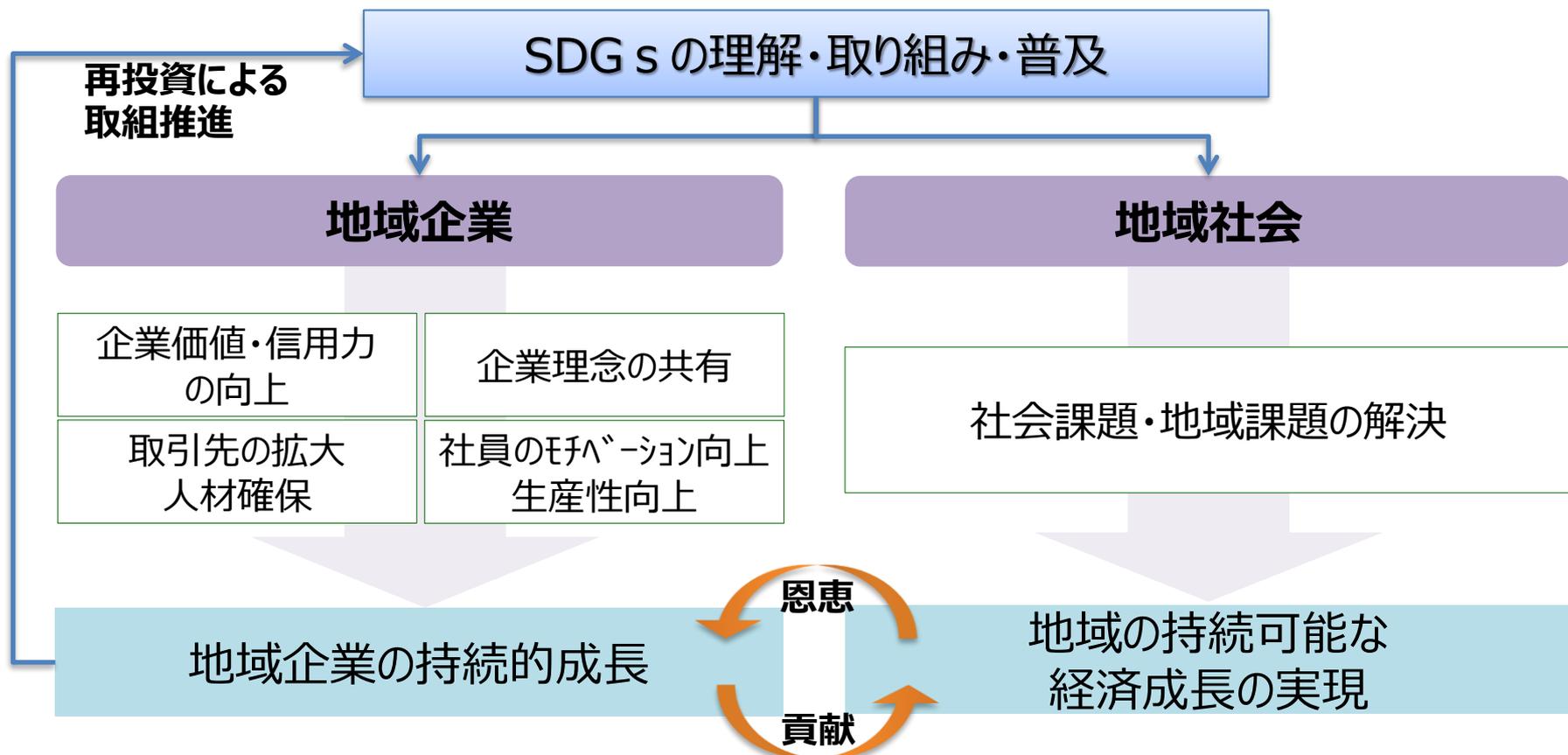
**ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で  
より良い方向に変化させる**

2004年 スウェーデン・ウメオ大学 エリック・ストルターマン教授  
提唱

第二次産業革命時における蒸気機関から電力へ、馬車から自動車へといった旧技術から新技術への転換期には、新旧の両技術が併存することに加え、新技術から新たな産業や雇用が生まれた。組織や社会の様々な仕組みを見直すことまで含め技術を活用し、生産性を向上させられるか否かで、それ以後の地域や国の経済成長は明暗が分かれてきたことは重要な教訓。

## 4. (5) SDGsによる持続可能な環境・社会づくり

### SDGsの取り組みは、地域企業の成長に結びつく



1. プロフィール

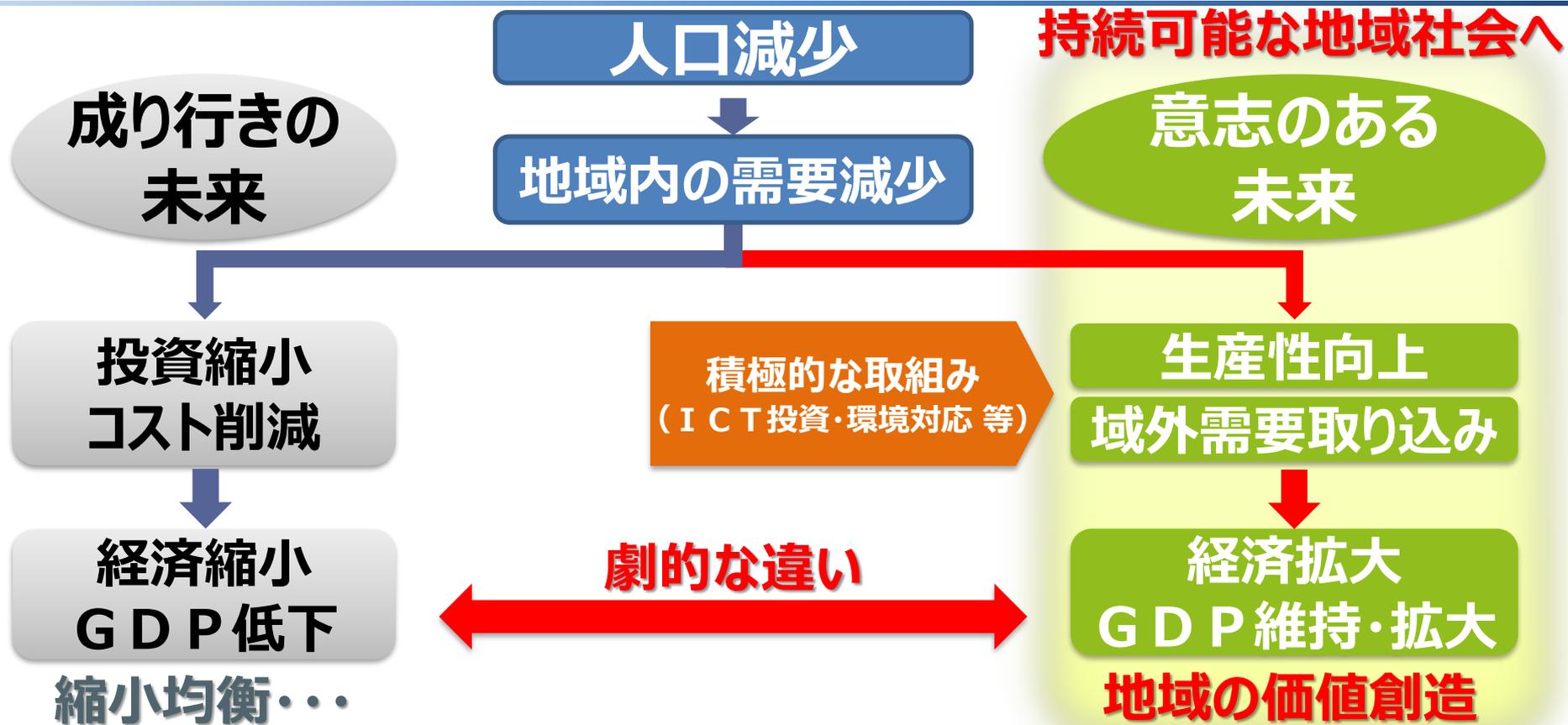
2. 熊本県、山鹿地域の現状

3. 山鹿地域の課題について

4. 山鹿地域の展望について

5. まとめ

## 5. まとめ（意思ある未来）



TSMC進出に伴う100年に一度のビッグチャンスをつかみ、意思のある未来を創り上げる

---

**ご清聴ありがとうございました**

**熊本経済同友会**